令和2年度 音楽科 1年 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

< 2 > 各学年・各分野の目標

- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
- ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。
- ・多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。
音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考えたりして、多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。(80%以上)
	B	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	C	努力を要する状況である。(50%未満)

評定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。(90%以上)
	4	十分満足できる状況である。(80%以上)
	3	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	2	努力を要する状況である。(50%未満)
	1	一層努力を要する状況である。(20%未満)

< 5 > 指導上の配慮事項

- ① 器楽(リコーダー)練習を通し、呼吸法など音楽活動に必要な基礎的な技能を身に付けさせる。
- ② ワークシートを活用し、音楽の要素や特質を理解させ表現や観賞に活かす。
- ③ パートリーダーを中心としたグループ練習を設定し、主体的に活動できる場面を設ける。

音楽科 1 学年 年間指導計画・評価計画

月	単元名 指導時数	ねらい・学習課題 学習活動	評価の観点				評価規準 評価の方法
			関	創	技	鑑	
6	ガイダンス (1) 情景を現した音楽 (3)	歌うための準備・校歌 変声と混声合唱 基礎的知識事項 「春」から第1楽章 リトルネロ形式 ソネット 弦楽器・鍵盤楽器	●		●		・正しい姿勢や発声で歌えている。(観察・ワークシート・定期考査・実技試験) ・基礎的知識事項を身につけている。(ワークシート・定期考査) ・曲の構成や使われている楽器の音色を味わい、ソネットと音楽の関わりを理解し、曲想を感じ取ることができる。 (観察・ワークシート・定期考査)
7	歌詞の内容や曲想を感じ取って (4) 日本語の美しさを生かして (2)	混声合唱曲 「夏の思い出」				●	・表現するための基礎的な技能を身に付け、曲想を感じ取って表現している。 (観察・ワークシート・定期考査) ・曲想や言葉の特性を感じ取り音楽表現に生かしている。 (観察・ワークシート・定期考査)
8	音楽の構造と曲想との関わりを感じ取って (2)	「魔王」	●			●	・物語の進行と関係する曲想の変化を感じ取り、音楽の特徴を捉えて鑑賞している。 (観察・ワークシート・定期考査)
8	言葉のリズムを生かして (3)	リズムアンサンブル	●	●	●		・リズムや全体のまとまりを感じ取り、音楽表現の工夫をしている。 (観察・ワークシート・定期考査)
9 10	歌詞の内容や声部の役割を生かして (10)	混声合唱曲	●	●	●		・曲想や声部の役割を感じ取りそれらを生かした表現の工夫をしている。(観察・ワークシート・定期考査・実技試験)
11	日本の伝統音楽に親しもう (4)	「六段の調べ」 「民謡」 序破急	●			●	・和楽器の音色や発声の特徴を理解し、我が国の音楽の多様性を感じ取って鑑賞している。 (観察・ワークシート・定期考査)

12	和楽器に触れてみよう (2)	箏の基本的な演奏	●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の音色を味わい、基本的な奏法を身につけている。 (観察・ワークシート・定期考査) ・基礎的な奏法を身に付け、表現している。 (観察・ワークシート・定期考査)
	リコーダーに親しもう (2)		●	●	●	
1 2 3	リコーダーに親しもう (2)	「ブルタバ」 交響詩 協和音、不協和音 混声合唱曲	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な奏法を身に付け、表現している。(観察・ワークシート・定期考査・実技試験) ・曲想と情景の関わりを意識して聞くことができる(ワークシート・定期考査) ・和音の響きの違いを感じ取り表現の工夫をしている。 (観察・ワークシート・定期考査) ・曲想を感じ取りながら音楽の構成や声部の役割を生かして表現している。 (観察・ワークシート・定期考査)
	情景と曲想の変化とのかかわり(3)		●		●	
	ハーモニックアンサンブル(2)		●	●	●	
	曲想を豊かに感じ取って (4)		●	●	●	